

「イエシュアとおびただしい人々」

ルカの福音書 6:17~19

はじめに

今日の箇所は、どちらかと言うとさらっと読み進んでしまい、特に取りざたされないような箇所です。何しろこの後に控えているのはイエシュアの有名な説教の一つ、「幸いな者、哀れな者」について説かれた、マタイの福音書五章では「山上の説教」と呼ばれているものが記されているからです。ですから今日の箇所は単なる背景、状況説明として受け取られやすい記述です。しかし神はこのような箇所にも重要なメッセージを隠しておられます。今日もヘブル語の初子の御言葉、最初の言及の視点でこれを読み解いてまいりましょう。

1. 平らなところ

ルカの福音書【新改訳 2017】

6:17 それからイエスは彼らとともに山を下り、平らなところにお立ちになった。大勢の弟子たちの群れや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロやシドンの海岸地方から来た、おびただしい数の人々がそこにいた。

イエシュアは使徒と名づけられた 12 人を伴って「山を下り、平らなところにお立ちになった」とあります。この描写は単なる状況説明ではありません。「平らなところ」平地という意味のヘブル語ミーシヨール(מִישׁוֹר)には本来、「異邦人の地」というような意味合いがあるのです。以下はその最初の言及です。

I 列王記【新改訳 2017】

20:23 そのころ、アラムの王の家来たちは王に言った。「彼らの神々は山の神です。だから、彼らは私たちより強いのです。しかし、私たちが平地で彼らと戦うなら、きっと私たちのほうが彼らより強いでしょう。

20:28 ときに、一人の神の人が近づいて来て、イスラエルの王に言った。「主はこう言われる。『アラム人が、主は山の神であって低地の神ではない、と言っているので、わたしはこの大いなる軍勢をすべてあなたの手へ渡す。そうしてあなたがたは、わたしこそ主であることを知る。』」

これはアラムとイスラエルとの戦についての記述ですが、当時イスラエルの神は異邦人の国々から「山の神」だと考えられていました。しかしイスラエルの神である主は、この世のどこにおいても「わたしこそ主であること」、山でも平地でもどこにおいても、全地の主であることを示すためにアラムの作戦を打ち砕き、彼らをイスラエルの手に渡されました。このように「平地」ミーシヨールには「神である主がイスラエルの手に渡される異邦人(の地)」という意味があるのです。またイエシュアは「山を下り」という箇所に使われているヤーラド(יָרְדֵּן)も本来は、バベル(バビロン)の計画をやめさせるために神が天から降りて来られる(創世記 11:5)という意味で使われた言葉なのです。つまりイエシュアが使徒たちを伴っ

て「山を下り、平らなところにお立ちになった」というこの描写には、イエシュアの地上再臨の「型」が表されているのです。こう預言されているとおりです。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

19:11 また私は、天が開かれているのを見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている方は「確か
で真実な方」と呼ばれ、義をもってさばき、戦いをされる。

19:14 天の軍勢は白くきよい亜麻布を着て、白い馬に乗って彼に従っていた。

19:15 この方の口からは、諸国の民を打つために鋭い剣が出ていた。鉄の杖で彼らを牧するのは、この方である。また、全能者なる神の激しい憤りのぶどうの踏み場を踏まれるのは、この方である。

19:16 その衣と、もものところには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

終わりの日に、獣と呼ばれる反キリストの支配を打ち砕くために「王の王、主の主」であるイエシュアは数多の「天の軍勢」を率いてこの地上に降りて来られます(事前に携拳された私たち教会はその一員です)。ちなみに「平らなところ」ミーショールの語源はヤーシャール(רָשָׁרָשׁ)と言ひ、それは「主の目にかなう正しさ」を意味する言葉で、「確かで真実な方」と呼ばれ、義をもってさばきという上記の預言とも結びついています。ではこのヤーシャールの最初の言及を見てみましょう。

出エジプト記【新改訳 2017】

15:26 そして言われた。「もし、あなたの神、主の御声にあなたが確かに聞き従い、主の目にかなうことを行ひ、また、その命令に耳を傾け、その掟をことごとく守るなら、わたしがエジプトで下したような病氣は何一つあなたの上には下さない。わたしは主、あなたを癒やす者だからである。」

これはモーセによってエジプトから脱出したイスラエルの民に、主がお語りになったものです。「主の目にかなうこと」という箇所に聖書で最初のヤーシャールが使われています。そしてその結論は「わたしは主、あなたを癒やす者だからである」とあり、後述しますイエシュアがこの「平らなところ」ミーショールで癒やしの御業を行われ、すべての病、汚れを癒やされたたこととの結びつきを見ることができます。そしてそれはつまり、イスラエルの民は「主の目にかなうこと」を行う、ヤーシャールの民である、そのようになる、そのように変えられる、という事実を、神のご計画を表しているのです。これを指し示すための「わたしは主、あなたを癒やす者」としてのイエシュアの御業がこの後展開されていっているのです。ちなみにこのヤーシャール(רָשָׁרָשׁ)に「神」エル(אֱלֹהִים)がついてイスラエル(אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל)となる、つまり神の御前に正しい民、主の目にかなう、選ばれた民、それがイスラエルであるとユダヤ人のラビ(教師)たちは自分たちの名をそのように解釈します。

このように新約聖書に記されたイエシュアについての記述、その御言葉は旧約聖書、特にイスラエルと結びつけて読むように神の趣向、技巧、細工が施されているのです。これに気づくならば、神がいかにイスラエルという存在に拘っておられるか、固い決意と情熱をもってこの民を選んでおられるかということを知ることができるのです。

2. ツロとシドン

では次に、この山から平地に下りて来られたイエシュアのみもとに、集まって来た人々を見てください。そこには大勢の弟子たちとユダヤ人たち、それらに加えて「ツロやシドンの海岸地方から来た、おびただしい数の人々」がいました。この「ツロ(צור)」という地名は、「敵」という意味のツアル(צור)と同じ綴りで、それは本来、神がアブラハムに渡されるアブラハムの敵、つまりイスラエルの民の敵を指し示す言葉なのです(創世記 14:20)。このイスラエルの敵とは、究極的には人ではなく蛇、悪魔であるサタンです。以下のエゼキエルの預言は「ツロ(צור)」に対しての宣告となっていますが、その内容はすべて神の前に墮落したケルビム、いわゆる墮天使としてのサタンに対する神の哀歌、悲哀の御言葉です。

エゼキエル書【新改訳 2017】

28:11 次のような主のことばが私にあった。

28:12 「人の子よ、ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう言われる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。

28:13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、縞めのう、碧玉、サファイア、トルコ石、エメラルド。あなたのタンバリンと笛は金で作られ、これらはあなたが創造された日に整えられた。

28:14 わたしは、油注がれた守護者ケルビムとしてあなたを任命した。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いていた。

28:15 あなたの行いは、あなたが創造された日から、あなたに不正が見出されるまでは、完全だった。

28:16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、こうしてあなたは罪ある者となった。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして神の山から追い出した。守護者ケルビムよ。わたしは火の石の間からあなたを消え失せさせた。

悪魔サタンはこのように、もとは神に最も近い存在、「全きものの典型…知恵に満ち、美の極み」と言われたケルビムの一人でした。しかしその行いに「暴虐が満ち…罪ある者」となったために「神の園、エデン」とも呼ばれる「神の聖なる山」「神の山から追い出」されたのでした。そのサタンに対して神は「ツロの王」と呼ばれ、ここに「ツロ(צור)」という名を用いられたのです。つまりこの平地にいたツロ人たちは上記の預言に記された「神の山から追い出」された墮天使、悪魔であるサタンと、それにつき従う墮天使たち、悪霊どもを表しているのです。

そしてそのツロと対をなすようにして記されている「シドン(צידון)」という名にはツアイド(ציד)「狩人」という言葉が隠されています。そしてそれは本来、ある一人の人物を指し示しています。

創世記【新改訳 2017】

10:8 クシュは二ムロデを生んだ。二ムロデは地上で最初の勇士となった。

10:9 彼は主の前に力ある狩人であった。それゆえ、「主の前に力ある狩人二ムロデのように」と言われるようになった。

10:10 彼の王国の始まりは、バベル…の地にあった。

バビロンの王にして当時の全人類を支配した「ニムロデ…地上で最初の勇士」、この存在を指し示す言葉が「狩人」ツアイドであり、「シドン(יִדוֹן)」という名にはそれが隠されているのです。この「ニムロデ(נִמְרוֹד)」とはマーラド(מַרְדּוּ)「反逆する」者という意味であり、その名のとおり彼の王国は神に対する反逆を企てます(創世記 11:4)。このような、世界を一つにして神に反逆させる人物、それは獣と呼ばれる反キリストです。このシドンにはそのような存在が指し示されているのです。この悪魔の子、獣と呼ばれる反キリストについて、ヨハネの黙示録 13:1 にはこの獣は「海から…上って来る」と預言されていますが、それが「ツロヤシドンの海岸地方から来た」という記述と見事に結びつくのです。サタンと反キリスト、これらの勢力を、この地上から追い出し、その脅威からイスラエルを、それにつながる異邦人を救い出すために、天の軍勢を率いて地上再臨されるイエシュアの姿が、そのような神のご計画が、この一見何の変哲もないような情景描写、状況説明と思える記述の中には秘められているのです。このようにヘブル語のその最初の言及によって読み解くならば、イエシュアについてのすべての記述には意味があり、そしてそのどれもが神のご計画を指し示しているのです。

3. すべての人を癒やす

ルカの福音書【新改訳 2017】

6:18 彼らはイエスの教えを聞くため、また病気を治してもらうために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々も癒やしてもらっていた。

6:19 群衆はみな何とかしてイエスにさわろうとしていた。イエスから力が出て、すべての人を癒やしていたからである。

イエシュアはなぜこのように「癒やし」という御業、奇蹟をもってご自身を表されたのでしょうか。それは先ほどの出エジプト記 15:26 でも述べたように「わたしは主、あなたを癒やす者だからである」と言われたイスラエルの神である主とご自身との同一性、「わたしはイスラエルの神、主である」というイエシュアの主張の現れ、神宣言です。そしてそれは同時にイスラエルの民が神の御前に正しく生きる民、主の目にかなうことを行う民である、そのようになる、そのようにする、新しく造り変えるという神のご計画を表すものでもあります。それを成す、成し遂げる者、それがこのイエシュアである、という主張がこの癒やしの奇蹟には表されているのです。

そしてこの癒やしの奇蹟にはもう一つの重要な意味が隠されています。それはもちろん「神の国」についてのもので、イエシュアが王の王、主の主としてこの地上にお建てになる「神の国」とはどのようなものであるかということがこの癒やしの御業、正確には行為ではなく「癒やす」という言葉そのものに表されているのです。ヘブル語で「癒やす」という意味の言葉にラーファー(לַפֵּא)があります。この最初の言及を見てみましょう。

創世記【新改訳 2017】

20:14 アビメレクは、羊の群れと牛の群れと、男女の奴隷たちを連れて来て、アブラハムに与え、またアブラハムの妻サラを彼に返した。

20:15 アビメレクは言った。「見なさい。私の領地があなたの前に広がっている。あなたの良いと思うところに住みなさい。」

20:16 サラに対しては、こう言った。「ここに、銀千枚をあなたの兄に与える。これはあなたにとって、また一緒にいるすべての人にとって、あなたを守るものとなるだろう。これであなたは、すべての人の前で正しいとされるだろう。」

20:17 そこで、アブラハムは神に祈った。神は、アビメレクとその妻、また女奴隷たちを癒やされたので、彼らは再び子を産むようになった。

20:18 主が、アブラハムの妻サラのことで、アビメレクの家すべての胎を堅く閉じておられたのである。

これはアブラハムの祈りによってゲラルの王アビメレクの家的女性たちがラーファー「癒やされた」という出来事についてのものです。アビメレクはアブラハムの妻サラが、自分は彼の妹だと言ったため、誤ってサラを妻として召し入れてしまいました。しかし神が真実を告げられたためアビメレクは多くの財産とともにサラを返し、さらには領地、土地まで差し出しました。つまり彼はアブラハムとサラという夫婦、つまりアブラハムの家をもとに戻し、これを回復し、さらに増し加えて、これを大いに祝福したのです。その結果、「アブラハムは神に祈った。神は、アビメレクとその妻、また女奴隷たちを癒やされたので、彼らは再び子を産むようになった」という出来事が起こりました。これは単なる癒やしの奇蹟ではなく、「神の国」の成り立ちと仕組みを表した「型」です。アブラハムの家の回復、すなわちその子孫であるイスラエルの家の回復と繁栄がここに示されており、またその家、その民を祝福する者はイスラエルのゆえに、イスラエルによってラーファー「癒やされ」そして「子を産むように」なる、つまり神に祝福されるという事実が表されているのです。まさにこう約束されているとおりです。

創世記【新改訳 2017】

12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

アブラハムの子孫、イスラエルの民をのろう、敵対する者はのろわれ、この地上から追い出されます。イエシュアはそれを表すために人々に憑りついた汚れた霊どもを追い出されました。そしてイスラエルを祝福する者は癒される、祝福されることを表すために癒しの御業を行われたのです。

4. 聞く

私たちクリスチャンはいつも軽々しく「癒された、治った」という言葉を口にしてはいますが、果たしてそこに今日述べた神のご計画が「神の国」が覚えられているのでしょうか。実にイエシュアの御言葉とその御業はすべて「神の国」を指し示しているのです。私たちはいつも神が癒やして下さること、助けて、与えて、守って、導いて下さることばかりに目をとめてしまいがちです。しかしそれとともに私たちがすべきことがあります。それは「彼らはイエスの教を聞くため、また病気を治してもらうために来てい

た」という記述にあるように、まずはイエシュアの教え、イエシュアについての御言葉をよく「聞く」ということです。今日の箇所を読んで「私も癒してください。ここがあそこが痛いです。」と祈る人は、その聞き方があまりにも幼い、いや聞こえていないと言わざるをえません。これは前回もお伝えしましたが「聞く」シャーマ(שמע)とは本来、「主の来られる音、呼び集める声を『聞く』」という意味なのです。

創世記【新改訳 2017】

3:8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間身を隠した。

3:9 神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」

主の来られる音、あなたを呼ばれる主の呼び声、それは主イエシュアが再び来られる音、声、すなわち御言葉を「聞く」こと、すなわちイエシュアの再臨についての御言葉にこそ耳を傾けるということなのです。それはつまり主イエシュアがどのようにして来られるのか、そして来られたらどのようなことが起こるのか、私たちはどうなるのか、という御言葉を注意して聞き分けるということです。「絶対音感」という能力をご存じでしょうか。音楽だけでなくあらゆる音声、物音、騒音までもがすべてドレミで聞こえるという能力ですが、私たちに必要な能力は、あらゆる御声、御言葉、さらには目に見える状況、環境までもが主イエシュアの再臨についての御言葉、神のご計画の完成、まさに「神の国の福音」に聞こえる、そのように受け取れるという、いわば「絶対福音感」です。

私たちはみな牧者であるイエシュアの羊です。羊は羊飼いの声を聞き分け、そうでない声、異なる音から離れ、イエシュアの来られる音、その御声、再臨についての御言葉にのみ耳を傾けなければならないのです。そうならば私たちの求め、願い、祈りはもはや「癒やしてください、助けて、与えて…」とはなりません。ただ「主イエシュアよ、来てください。」となるのです。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

22:20 これらのことを証しする方が言われる。「しかり、わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。

22:21 主イエスの恵みが、すべての者とともにありますように。

一方イエシュアは人を見分けられる御方です。誰がご自分の羊で誰がそうでないのかを分けるためにすべての人をそのみもとに集められます。そして救うべき者を救い、滅ぼすべき者を滅ぼされます。これを神の裁きと呼びます。今日の「イエシュアのみもとに集まったおびたしい数の人々」についての箇所にはそのような神のご計画における絶対の事実の「型」が表されているのです。